手の腱損傷治療の実際

講演では屈筋腱損傷の新鮮例と陳旧例の私どものセンターでの治療法および結果について主にお話しさせていただきます。新鮮例では縫合法およびその注意点、術後の早期運動訓練の実際について提示いたします。治療の基本は早期運動をしても再断裂しない縫合法、最近では様々な縫合法の縫合法がありますが、複雑な縫合法より簡単な縫合法を選択すべきと考えています。早期運動も確実に縫合部の腱滑走を確保するために自動屈曲訓練もしくはFlexion holdの訓練は必須と考えます。陳旧例では信州大学の先生方と共同で仕事をさせていただいている滑膜内腱移植の当院での方法および結果も提示いたします。また講演時間に余裕があれば少しだけ伸筋健損傷の治療についても話させていただきます。

　信州は私が生まれ育ったところですので、そちらに伺い講演させていただくことを非常に楽しみにしております。よろしくお願い申し上げます。

大井宏之

1962年生まれ

1987年　富山医科薬科大学医学部卒業・・・（現在、富山大学医学部）

1987年　長野県厚生連佐久総合病院　臨床研修医

1989年　　　同病院　整形外科

1995年　聖隷浜松病院　整形外科

1997年　　　同病院　手外科・マイクロサージャリーセンター

1998年　　　　同センター　医長

2005年　　　　同センター　部長

2007年　　　　同センター　センター長

日本整形外科学会：整形外科専門医

日本形成外科学会

日本手外科学会：手外科専門医、代議員、機能評価委員会アドバイザー、教育研修委員

日本肘関節学会：評議員、機能評価委員

日本マイクロサージャリー学会：評議員、同機関誌査読委員

静岡手外科・マイクロサージャリー研究会：世話人

東海手外科研究会：幹事

東海マイクロサージャリー研究会：世話人

2006年～　聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部臨床教授

1995年～2010年　ジュビロ磐田チームドクター